Sanriku-geopark
第６９号
R3年４月号
さんりくジオだより
三陸ジオパーク推進協議会

三陸の植生と大地の恵み

三陸ジオパークポスターは3種類あり、「豊かな恵みのジオ」(ピンク色)のポスターでは、自然の豊かな恵みを活かしたものとして「琥珀・畜産・鮭・鮑・鉄・わかめ・柚子・椿」を紹介しています。
その中から　今月号では「大船渡の椿」と「陸前高田の柚子」を特集しました。

《椿の里～大船渡》

■ヤブツバキの北限の地

大船渡市はヤブツバキの北限の地で、市内の至る所に自生していて〈椿の里〉と呼ばれています。気仙地方の海抜100メートル位まで生育し人々は古くから椿と共にある暮らしを営んできました。主に果実を採取し精油の材料に供されています。椿は余すところなく生活の役に立つ有用植物。最近では椿茶や椿冷麺などの商品開発が行われています。

市の花に指定されていて、子供の誕生記念に大船渡市内の高校生が育てた椿の苗木をプレゼントしているそうです。

■大船渡の三面椿（岩手県指定天然記念物）

大船渡市末崎町中森の熊野神社境内にある日本最古のヤブツバキの古木。樹齢は1400年と言われ、地際の幹囲8m、樹高10m、支幹が地表から6本に分かれ、枝張りが大きく壮大な樹形をなして毎年多数の花をつけます。

神社の創設時に境内の東、西、南の三面に植えたことから【三面椿】と呼ばれ、現存するのは東側の一株だけ。3月下旬から4月初めにかけて花が咲きます。

北緯39度付近という高緯度のヤブツバキの巨木として、非常に価値が高いと言われています。大船渡市内では庭木に椿を植えているところが多く、学校でも椿の授業が行われています。

《北限のゆず～陸前高田》

■震災を機に始まったプロジェクト

震災で甚大な津波被害を受けた陸前高田には、200年以上前から『ゆず』が自生していました。 岩手県内でも陸前高田の気候は温暖で日照時間の長い地域であることから、柑橘類の生産に適しており、特に『ゆず』は、陸前高田の庭先には当たり前のように植えられていました。

そして、震災を契機に地域外からの多くの支援や交流のなかで、この『ゆず』のもつポテンシャルに特産物としての認識が高まりました。

地域の事業者で構成される「北限のゆず研究会」では、適切な栽培管理について研究し、ゆずを使った菓子や酒類、調味料などの加工品開発等、地域の活性化につながる様々な活動を行っています。

http://www.hokugen-yuzu.jp/

《唐桑半島ビジターセンター》

宮城県気仙沼市の代表的なジオサイト「御崎」の近くにある拠点施設です。　震災以前から三陸海岸に特に関係の深い「津波」をテーマに、実際に即してストーリー化し、映像,音響,振動,送風等を組み合わせた全国初の津波擬似体験館があります。唐桑半島の折石をモチーフにしたゆるキャラ『オーレ君』がお出迎えしてくれます。https://kesennuma-kanko.jp/visitor-center/

三陸ジオパーク・現地推進員が記者となってお伝えするコーナー

毎回いろいろな情報を掲載いたしますので、どうぞお楽しみに！

今回の記者：菊池 啓（いわて復興応援隊／岩手県沿岸広域振興局産業振興室配置）

☆ 現地推進員の “とある1日“ ☆

令和3年3月18日（木）、19日（金）の2日間にわたり、三陸ジオパークの横断幕・のぼり・ポスター・ジオマップ等の配布と令和3年度におけるジオ活動の推進に向けたご挨拶等のため、三陸沿岸南部の市町村や拠点施設を回ってまいりました。

令和2年度はコロナ禍ということもあり、なかなかお会いする機会がなかったジオ担当の方々と直接お会いし、認定ガイドさんのブロック間交流会の開催など、新年度の取組みに関する意見交換等も行うことができました。

また、気仙沼市役所に伺った際、3月11日（木）に開園したばかりという「気仙沼市復興祈念公園」（気仙沼市陣山）についてご紹介いただいたので、それは行ってみなければ！と早速訪れてきました。

実際に訪れてみますと、そこは「陣山」という小高い丘の上にありました。 四方を被災地区に囲まれ、一方で将来的にも津波浸水の可能性が低いこと、海を望むことができるとともに、復興が実感できる場所として選定されたといいます。

公園の中心部には、「祈りの帆（セイル）」という名のモニュメントがあり、その内部に入ることができる造りになっていました。眼下には気仙沼湾を望むことができ、遠くには開通したばかりの三陸道の「気仙沼湾横断橋（愛称:かなえおおはし）」や「気仙沼大島大橋」も見ることができます。

三陸ジオパークの“5つの視点“の中に「大津波の歴史と共生」があります。 三陸道がつながり、かなり近く感じるようになりましたので、皆様も訪れてみてはいかがでしょうか。

階段の他にぐるりと回りながら上がれるスロープもあります。

「祈りの帆（セイル）」

「祈りの帆（セイル）」の中に入ることができます。

「祈りの帆（セイル）」内部の奥側

「気仙沼湾横断橋（R3.3.6開通）」左手奥には「気仙沼大島大橋」も！

「気仙沼大島大橋（H31.4.7開通）」大島のジオサイトにも行きやすく！

☆ ジオ教室の開催 ☆

令和3年3月24日（水）、釜石市主催で「甲子学童育成クラブ（釜石市甲子町）」の皆様を対象とした「ジオ教室」が開催され、その様子を取材してまいりましたのでご紹介いたします。

会場には、小学1～6年生が50名程度参集し、講師役は、釜石観光ガイド会長の三浦達夫さんが担当。資料は、釜石市商業観光課の廣田紀子さんが小学生向けに内容を噛み砕いて作成したものとのことで、漢字にはふりがなが振ってありました。

“そろそろ飽きてきたかな～“と見ていると、三浦会長からタイミング良く「釜石鉱山の坑道の中に入って、トロッコに乗ったことがある人～？」、「浄土ヶ浜に行ったことがある人～？」、「餅鉄が欲しい人～！？」などと質問があり、そうすると「は～い！」とちゃんと反応して手を挙げる児童たちを微笑ましく感じました。

最後に感想を聞いてみると、「三陸ジオパークというものを初めて知りました」、「地元の知らなかったことを知ることができて良かったです」など、2名の児童から発表がありました。

絶好のジオ教室日和（？）です。

真剣に聴いている模様です。

三浦会長と廣田係長

「餅鉄が欲しい人～？」

編集後記：「リモート会議」とか「オンラインツアー」が主流になって　それが当たり前の時代になりつつありますが、自分のこの目で見ることは　やっぱり違う！！という体験が多々あります。　写真でしか見ていなかったジオサイトの＜穴通磯＞は、予想をはるかに上回るダイナミックな景色が広がっていて、この感動を伝える術は、、ない！としみじみ感じてきました。【百聞は一見に如かず】とはよく言ったものですね。
昔からの言い伝えや諺にも「なるほど納得」です。～と～

三陸ジオパーク推進協議会

〒027-0072
岩手県宮古市五月町1－20
（宮古地区合同庁舎2階）

TEL:0193-64-1230
FAX:0193-64-1234
info@sanriku-geo.com
https://sanriku-geo.com/

facebookはこちら！